

## 令和5年度 施設管理運営事業評価票

## 1 評価対象施設

公の施設の名称	宝塚市立スポーツセンター、宝塚市立末広体育館				
所在地	宝塚市小浜1丁目1番11号、宝塚市末広町3番77号				
指定管理者	団体名	(公財)宝塚市スポーツ振興公社	指定期間	開始日	平成31年4月1日
	所在地	宝塚市小浜1丁目1番11号		終了日	令和6年3月31日
選定方法	非公募		評価実施年	指定期間5年のうち4年目	
施設設置目的	市民への体育・スポーツの振興を図ることにより、心身ともに健全な青少年の育成及び、住民の健康保持に寄与することを目的とする。				
主な実施事業	①スポーツ及びスポーツレクリエーション等の振興事業 ②宝塚市から受託する社会体育施設の管理運営事業 ③その他この法人の目的を達成するために必要な事業				

## 2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a 利用人数	千人	900	946	900	581	900	644	900	975
b 利用率	%	65	71	65	71	65	73	65	72
c									
d									
e									

## 3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区分		令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算
収入計	A	332,457	259,124	261,470	330,561
指定管理料		92,276	84,530	84,422	84,530
利用料収入	C	143,774	104,314	115,325	135,116
自主事業収入		87,319	51,441	55,968	91,324
その他		9,088	18,839	5,755	19,591
支出計	B	333,626	287,980	287,057	329,162
指定事業費		288,264	256,033	250,957	278,355
内、人件費	D	91,173	85,495	83,317	84,826
内、再委託料	E	110,285	98,754	97,504	101,374
自主事業費		45,362	31,947	36,100	50,807
事業収支	A-B	(1,169)	(28,856)	(25,587)	1,399
利用率比率	C/A	43.2 %	40.3 %	44.1 %	40.9 %
人件費率	D/B	27.3 %	29.7 %	29.0 %	25.8 %
再委託費比率	E/B	33.1 %	34.3 %	34.0 %	30.8 %

・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を上げているため合計額とはならない。

・着色セルは、自動計算としている。

・事業費は、前年度以前の決算を記載する。

補足説明	令和4年度は、原油の高騰や世界情勢の不安定さから電気・ガスの燃料費単価が高騰し、施設運営において極めて厳しい事態となった。その他収入は、宝塚市物価高騰等対策指定管理者継続支援金を含む。
------	--

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目	評価基準	自己評価	所管評価	
①サービスの履行の確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を実施している。	A	A
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており適切である。	A	A
		外部委託業者に対して協定書等を遵守させている。	A	A
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	A	A
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令等を遵守している。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。	A	A
	情報公開	情報公開に関する法令等に準じた運用を行っている。	A	A
		協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	A	A
②サービスの質の評価	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A
		緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。	A	A
		緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。	A	A
	財務状況	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準18項目/本施設 項目】	A	A
	③安定性	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	S
		事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	A	A
利用者対応		利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	A	A
		利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。	A	A
		言葉使い、態度、服装等接客が適切である。	A	A
事業運営		事業計画に即し、受託事業を実施している。	A	A
		施設の目的に添った自主事業を実施している。	A	S
		事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	A	A
維持管理		仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。	A	A
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	A	A
	備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	A	A	
	協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A	A	
環境配慮	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	S	S	
広報活動	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	A	A	
苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A	
	要望、苦情等を整理し、遅滞なく市に報告している。	A	A	
利用者アンケート等	利用者アンケート調査等を実施し、その結果が妥当である。	A	A	
利用状況	利用者数、稼働率等は、目標に対し妥当な水準である。	A	A	
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準18項目/本施設 項目】	A	A	
③安定性	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	A	A
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	A	A
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	A	A
《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設 項目】	A	A	
指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響がワクチン接種の促進を始めとする感染症対策の効果もあり徐々に回復傾向にあったが、コロナ禍以前の利用者や自主事業参加者数には戻っていない。そのような状況の中、利用者の安全・安心に配慮した施設の管理運営に注力するとともに、厳しい収支状況の改善に向け経営改善計画の策定を行い、計画に基づき事業等を実施し、事業収支が大幅に改善したことで黒字決算となった。新たな事業については、利用者・市民の皆様喜んでいただくため、チアと単語英語の両方を楽しみながら学ぶ「英語deキッズチア」を立ち上げ、加えて大変人気の高いチャレンジ教室の「小学生バスケットボール教室」をレギュラー教室へと変更した。また、施設管理では、3年振りとなる屋外プール開場に向け、児童用プール槽の防水修繕とシャワー・ロッカー等備品の修理や利用者の安全・安心対策として、状態の悪いテニスコートを整備工事を行った。引き続き改善に向けて、上記計画を遂行することにより持続可能な組織運営を行い、魅力ある教室の創設と快適なスポーツ環境の整備に尽力し、利用者の更なる満足度の向上に努める。			
施設所管課所見 (成果、課題、今後の改善点等)	新型コロナウイルス感染症の考え方に変化の見られた年度であったが、新たな教室の実施や単発の教室をレギュラー教室へ変更したことなどが増収や利用者人数の増加につながり、事業収支が黒字になったことは、評価できる。引き続き、安定的な運営を期待するとともに、利用者が安全・安心する施設づくりに努めていただきたい。			
前年評価	A	総合評価	A	

※評価区分

評価基準:	S	=	協定書等の水準を大きく上回っており、優良である。
	A	=	協定書等の水準を満たしており、良好である。
	B	=	協定書等の水準を満たしているが、一部改善が望ましい。
	C	=	協定書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。
《総括》:	S	=	評価基準が全てA以上であり、かつSが過半数である。
	A	=	評価基準のうちBが3割未満で、Cがない。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S	=	自己評価、所管評価の《総括》にB・Cが含まれず、かつSが過半数である。
	A	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、Bが2つ以下である。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。